韓国・釜山から

複眼の目で歴史を見る…真の相互理解を求めて

新羅大学校・助教授　市塚　守

韓国になれてきた４年目

２０１０年３月に藤岡北高校を退職して、韓国釜山の新羅大学校で韓国人大学生（時には中国人学生にも）に日本語を教え始めて早くも４年目になった。

１９９４年度に、学校を１年間休んで、ソウルの延世大学校韓国語学堂に留学して以来、長期休業を利用して１年間に３回、５泊程度の韓国旅行をしてきたので、韓国には慣れていると思っていた。ところが、いざ、韓国生活を始めると、当惑することばかりで、旅行と生活は全く別物だと悟った初年度であった。当初は確かに不慣れな生活だったが、さすがに３年間生活すると、韓国に慣れてきたといえる。まさに「石の上にも３年」である。

特に、韓国語がかなり分かるようになったのは大きい。来たばかりのときは、電話がかけられなかったが、今では韓国人学生の言っていることはだいたい分かるようになった。

次に、韓国人との交流が広がったことである。大学の日本語を教える韓国人講師とは、いっしょに研究会などに参加して交流が進んだ。韓国語が一定程度できるので、大学の掃除のおばさんやアパートの隣室の奥さん、パン屋の店員、飛行機の搭乗券を買っている旅行業者とも話ができるようになり、韓国人の多様さが分かるようになってきたと思う。

釜山在住の日本人とも、大学の日本人講師や日本人会を通じて交流が進んだと思う。昨年度は『釜山日本人会４０年史に見る日韓関係』を書いたこともあり、この本の出版を通じて韓国の出版社や日本人会役員と知り合いになり、韓国の中小企業の一部分や在韓日本人の実状について分かるようになってきた。

私はテレビが大好きで、休みのときは一日中、見ているのだが、この韓国テレビの視聴は韓国語の聞き取りの練習になるばかりでなく､韓国事情に通じることになる｡こうして、私の韓国理解は進んできたと思う。

日本人の眼から見ると

ところが、異国に住んでいることの反面、日本人として韓国や韓国人の価値観を強く意識するようになったことがある。私が韓国や韓国人を見る目や感じる心は、間違いなく日本人の目と心であると思う。

最初は、極めて否定的な目であった。韓国の後進性ばかりが目についた。夕方になるとゴミであふれる街かど、歩道を疾走するオー

トバイ、時間にルーズで約束を守らない韓国人学生、商道徳や人権意識の弱さなど、失望することが多い韓国に接した。

韓国の教科書に見る歴史認識

そして、韓国史の高校教科書を２０１１年から研究し始めた。その結果、翌年８月に『日韓の相互理解―高校歴史教科書の比較・研究』を自費出版したのだが、この教科書研究を通じて、韓国の日本に対する歴史認識と韓国人の日本人観に接することになった。

日常接している韓国人とは、その歴史意識や日本（人）観について話し合うことはほとんどない。韓国人とはいわば表面的な交際しかないといってよい。

私には、韓国留学以来２０年間付き合っている韓国人の友人がソウルにいる。これまで年３回、その家に泊まってきたし、この家族とは本音で話し合える関係を築いてきた。この友人は日本に１年間留学した経験があり、今はその時学んだ日本語を活用して日本との貿易で生活している。そのため、日本や日本人に関しては一定程度理解している。ところが、その奥さんの日本（史）観は、韓国人そのものであり、韓国教科書の記述通りである。

独島問題については説明しようとすると、彼女は全く私の意見を受けつけない。韓国で行われる研究会でも、韓国人の間では日本の主張は一顧だにされないのだが、それと同じである。

高退教「窓」でも書いたが、一昨年、日本文化史の授業で、私が「独島」に若干言及したところ、翌年、その授業を下ろされた。こうした韓国の主張や日本観は、韓国の教科書を貫徹しており、多くの韓国人はそのことについて何ら疑問を持たないばかりか、独島問題ばかりでなく、教科書を通じて韓国人の日本観は固定化されているといってよい。

「知的誠実さ」

わたしは、３７年間の教師生活を通じて、また、高教組の活動を通じて、学んだことは「知的誠実」ということだと思っている。知的誠実さに基づいているからこそ、教育研究集会や組合の各種動員が生きてくる。この知的誠実さに基づいた思想と行動が、すなわち科学であり、学問であるのではないか。

この点から、「韓国史」の日本史認識を見ると、遺憾と言う外ない。

「韓国史」教科書の日本に関する記述は、学問の香りが少ないばかりでなく、日韓友好の重要さもあまり感じられない。初歩的な間違いも多く、単なる思い込みや先入見で書かれている部分が少なくない。こうした自国教科書を放っておいて、よく日本の教科書を批判できるものだとあきれてしまうほどである。

最近は、日本史に関する一般書も読んでいるが、韓国の高校教科書よりいっそうひどいものもあるし、意外にまともなものもあることを発見した。正確な記述を見て意外さを感じるのは、それほど、不正確なものが多いという証左である。その他に、３年間、韓国の書物を読んできたが、日本に関する記述で間違いがないものは少ないという現状もある。

先日、３．１節の記念演説で、朴槿恵新大統領が日本に対して、「加害者と被害者という歴史的な立場は、千年の歴史が流れても変わらない」と言ったが、これは１６世紀末の文禄・慶長の役時代と変わらない歴史観である。

私は、その心情について理解できないわけではないが、為政者として見た場合、文禄・慶長の役も、日本の植民地支配も当時の朝鮮の為政者にも責任があると思っている。

初の女性大統領誕生

なお、初めての女性大統領として、韓国民の大きな期待を集めた朴大統領だが、閣僚任命でつまずいてしまい、就任以来１カ月以上たっているにもかかわらず、全ての閣僚が決まっていない状況となっている。閣僚の任命は、国会の同意を必要としているため、候補者の人事聴聞会が開かれる。国会議員の追及に対して、まともに答えられない候補者が続出し、朴大統領の支持率が急落している。これは、朴大統領が側近の意見を余り聞かず、独断専行になっているせいといわれる。国会議員として実績を積み重ねて来た朴大統領におごりがあるのかもしれない。

侵略者の責任は大きいが

さて、文禄・慶長の役は、事前に来日して豊臣秀吉に会った朝鮮使節が、秀吉の侵略の意図が分かったにもかかわらず、党争にかまけて、ほとんど防備をしなかったことによって、被害が拡大した。これは、無論、秀吉と日本軍に主要な責任があるが、防備を怠った朝鮮王朝の責任は免れないと思う。しかも、文禄・慶長の役から、３００年後も同じ日本の侵略に遭わなければならなかったのは、加害者に主な責任があるのは当然だが、帝国主義の時代であることや近代化の必要性に充分な認識がなく、近隣国の強大な軍事力や侵略姿勢を軽視した朝鮮王朝や大韓帝国の指導者にも責任があるのでないだろうか。こうした自国の為政者の責任を問わず、いつも侵略国の責任ばかり追及する姿勢から、同じことが繰り返されるのではないか。

ベトナム戦争に参戦して

韓国は、ベトナム戦争に参戦して、ベトナム人に大きな被害を与えた。国交回復時に謝罪して、教科書にもわずかだが記述があるのは、日本との被害・加害関係が反映しているといわれる。この点で、「新しい歴史教科書」を出した日本の歴史修正主義者や右翼に比べれば、韓国の方が評価できると思う。

しかし、現在の韓国を見た場合、学問的レベルがあまりに低すぎるし、あまりに自覚がなさすぎるのではないか。また、被害者意識が強すぎるのでないか。不正確で思い込みにあふれた「韓国史」教科書の記述では、韓国人の歴史観が歪んでしまうのではないか。

思想・信条・学問の自由が真実に通ずる

この点について、日本の植民支配や戦争責任ばかり追及している日本の良心的な人々には、この歪んだ教科書について何の論評もないのは問題である。自国のナショナリズムに批判的ならば、他国のナショナリズムに対しても無批判であってよいはずがない。そうでなければ、相互理解に基づいた友好関係の建設など夢のまた夢ではないのか。

以上の意味で、私は今後も韓国教科書や日本に関する一般書の批判を続けて行きたいと思う。そうでなければ、抑制のないナショナリズム､非国際性を修正することはできない。

かつて、北朝鮮を持ち上げ、朴正熙の独裁を嫌った人々がいたが、一番重要な点は、その国の人権状況である。思想・信条・学問の自由のないところに真実などあるはずもない。

歴史を構成する要素は複雑であり、複眼の目が必要とされていると思う。

＜追記＞　北朝鮮の挑発には韓国民はもう慣れっこになっていて、全く通常と変わらない状況です。日本ではマスコミを中心に大騒ぎという話ですが、本当に日本は平和なのだと思います｡だから､韓国に嫉妬されるのです。